

## 投手の12秒および20秒ルールの取扱基準（2024年版）

### 1. 12秒及び20秒ルール

投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受け取った後、走者がいない場合には12秒以内に、走者がいる場合には20秒以内に投球しなければならない。

違反した場合、球審は走者が塁にいない場合には**ただちにボールを宣告**し、走者がいる場合には警告を発することとし、同一の投手が2度繰り返したら、3回目からは**その都度ボールを宣告する**。尚、塁に牽制球を送球したときは、20秒の時計をリセットする。

### 2. 時計

時計は二塁塁審がストップウォッチを持って行う。（3人制は三塁塁審）

### 3. 12秒ルールの適用

①走者がいない場合に適用する。

②12秒の計時は、投手がボールを所持し、打者がバッターボックスに入って投手に面した時に始まり、**投手が投球動作を開始したときに終わる**。

※投手が投手板についているかどうかに関係なく、打者の準備が整ったときに計時を始める。

③12秒を経過した時（13秒になったとき）、二塁塁審（三塁塁審）はタイムを宣告し、球審に12秒が経過したことを知らせる。

※二塁塁審（三塁塁審）のタイムの宣告と同時にボールデッドとなる。

※タイムの宣告にもかかわらず投手が投球した以後のプレイは無効とする。

④二塁塁審（三塁塁審）の知らせを受けた球審は、ボールを宣告する。その際、球審は投手及び守備側の監督に12秒ルールを適用したことを告げる。

### 4. 20秒ルールの適用

①走者がいる場合に適用する。

②20秒の計時は、次のときに始まり、いずれの場合も投手が**投球動作を開始したときに終わる**。

A)インギングが始まる時やボールデッドになったときは、球審がプレイを宣告したとき。

B)ボールインプレイの状態、新しい打者が打撃を開始するときや、打者がバッターボックスの外に出ざるを得なくなったときなどは、投手がボールを所持し、打者がバッターボックスに入って、投手に面したとき。

※投手が投手板についているかどうかに関係なく、打者の準備が整ったときに計時を始める。

C)ボールインプレイの状態、打者がバッターボックス内で打撃を継続しているときは、投手が捕手や他の野手から**ボールを受け取り、打者に面したとき**。

③**20秒が経過したとき（21秒になった時）、二塁塁審（三塁塁審）は「タイム」を宣告し、球審に20秒が経過したことを伝達する**。

※二塁塁審（三塁塁審）のタイムの宣告と同時にボールデッドとなる。

※タイムの宣告にもかかわらず投手が投球した以降のプレイは無効とする。

④二塁塁審（三塁塁審）の知らせを受けた球審は、同一投手の2度目までの違反に対して投手及び守備側の監督に20秒が経過したことの警告を発し、その回数を知らせる。

⑤**同一投手が3度目に20秒を経過し21秒になったとき、二塁塁審（三塁塁審）と球審は、走者がいないときと同様の処置をする**。

⑥投手が塁に牽制球を送球したときは、20秒の計時をリセットする。

※投手板をはずしただけのときや偽投のときは、計時を継続する。

※送りバントのケースなど、捕手が内野手にサインを出している間も、計時は継続する。

以上

## 2024.4.2 競技者必携転記

### 八王子市軟式野球連盟 注記

八王子市軟式野球連盟では、2024年度は **ルール浸透期間**とし、ボールの宣告は行わず注意を継続する。

## 2024.2.3 追記